遊んでばかりでいいの・・・
はい！
幼児期の教育で大切なことは　遊びを通して育まれます

幼児期の教育は、『生涯にわたる人格形成の基礎を培うとても重要なもの』です。子どもたちは、「先生が大好き！」という心の安定から、自分らしさを表し始めると、周りの環境に目を向け「えっ？面白そう！」「やってみようかな！」と、五感で心が揺さぶられ、そして遊び始めるのです。幼児教育は『環境を通して行う教育』です。自分のやりたいことを見付けじっくりと夢中になって遊びながら、幼児期に育みたい資質、能力を育んでいくのです。様々な直接的な体験を大事にし、遊びを通して育まれた資質や能力は、小学校以降の生活や学習の基盤となります。自分のことを自分でしようとする力、友達と思いや考えを伝え合いながら同じ目的をもって遊ぼうとする力、やっていいこと、やらない方がいいことを自分で判断できる力等、これからの未来を生きていくために大切なことは、就学前から育んでいきたいですね。ひのっ子は、今日も元気いっぱいに遊びます。

遊んでいるのに、
先生って何するのかなぁ？

まなびぃ

先生たちは、こどもの「やりたい！」が
実現できるように援助するという大事な
役割があるのさ！

あそびぃ

子どもたちは保育室や園庭で遊びます。保育者は、子どもたちが安心して遊ぶ姿（前日の様子）を思いながら、環境を整えます。遊びを振り返り、「もう少し折り紙出しておこう。」「草花の色水遊びを楽しんでいたから、やりたいと言ってきた子に、すぐ渡せるようにビニール袋用意しておこう。」等、いろいろと考えています。遊びの場では、いろいろなことが起こります。子どもたちが「遊んでいる。」と感じながら、何を楽しみながら遊んでいるのかを受け止め、必要な援助をし、豊かな遊びの機会につなげることが大切です。

子どもたちがじっくり遊んでいたり、友達同士で話をしたり聞いたりしながら遊んでいる姿を「面白いこと考えたね！」と、認める声をかけています。もちろんトラブルになることもありますが、このトラブルも成長に必要な体験でもあります。その様子を見ながら、折り合いがつきにくい、けがにつながりそうと察したときは「何かあったの？」と、互いの思いを聞き、相手の気持ちを考えるように援助します。

子どもたちの会話やつぶやきの中には、新しい遊びが生まれるきっかけになることがあふれています。その「やってみたい。」の気持ちを受けながら、「遊び」が始まっていくのです。

「子どもたちと遊びの楽しさを共感すること」も、私たち保育者の大事な役割の１つです。

次のページを開いてみてください。一人一人の子どもたちが興味・関心のあることや、自分のやりたいことをして、遊び学んでいる事例です。それはそれは、すてきな『子どもの世界』です。

「6月のある日の動物園ごっこ」 年長5歳児

周りの枠内は、「育ってほしい姿（10の姿）」と、その場での保育者の援助です。

保育者（顔）は、全体の遊びを見ながら必要な時に援助をします。一度に関わることは難しいのですが、様子を見ながら「先にこの二人の話を聞いてあげることが必要かな。」「考えている姿があるから、認めよう！」等、その場で考えながら関わっていきます。

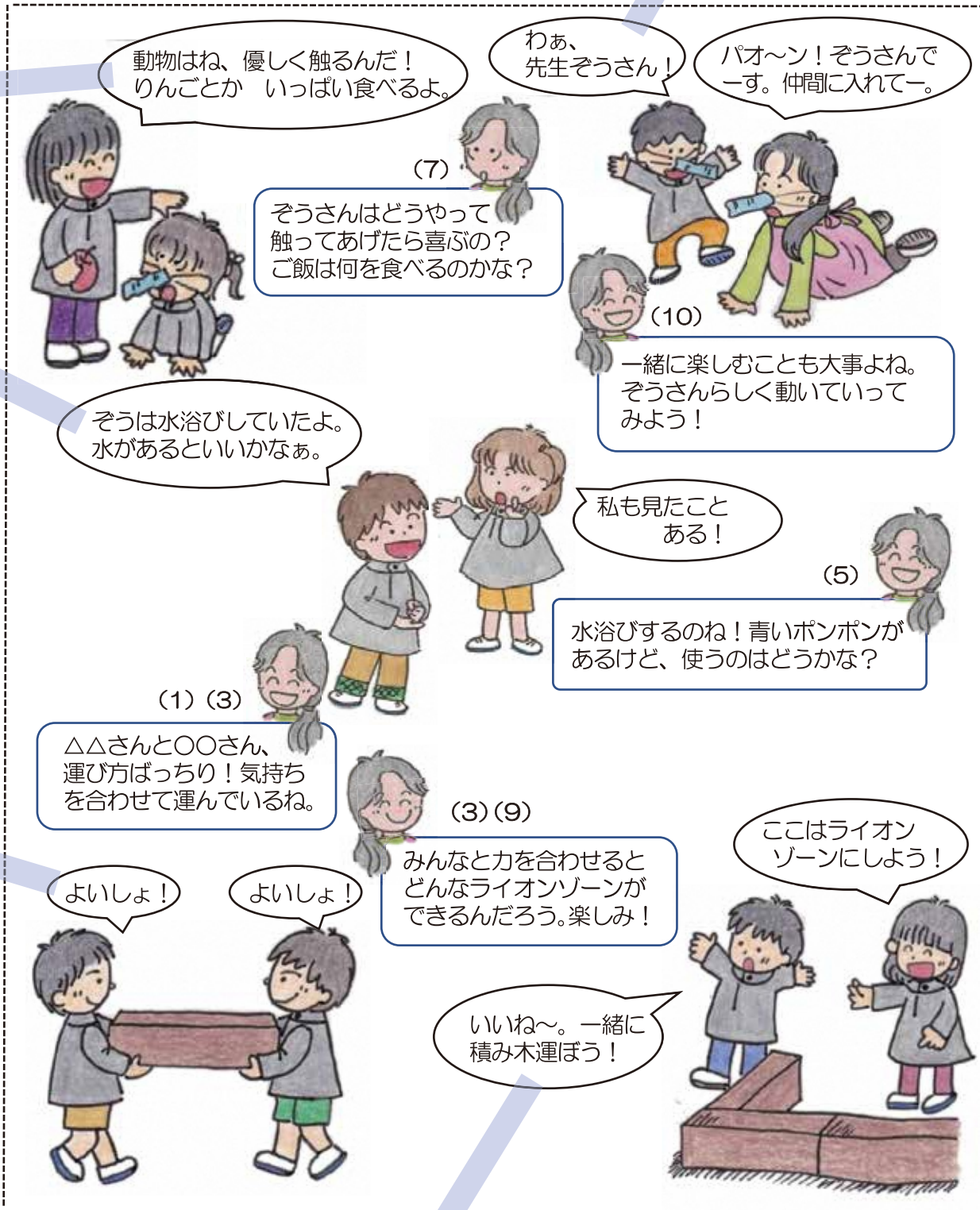
（10）豊かな感性と表現
- 遊びの仲間となることで、動きのモデルになったり、なりきる楽しさを一緒に味わえたりする。

（7）自然との関わり・生命尊重
- 当番活動等での、小動物と触れ合う経験を基に、ぞうの気持ちを考えた触れ合い方を認めている。

（5）社会生活との関わり
- 動物園でぞうを見た経験を遊びに取り入れようとする姿を受け入れ、楽しく表現できるような材料等を知らせている。

（1）健康な心と体
（3）協同性
- 友達の動きに合わせ、安全な運び方をしようとしている姿を認めている。

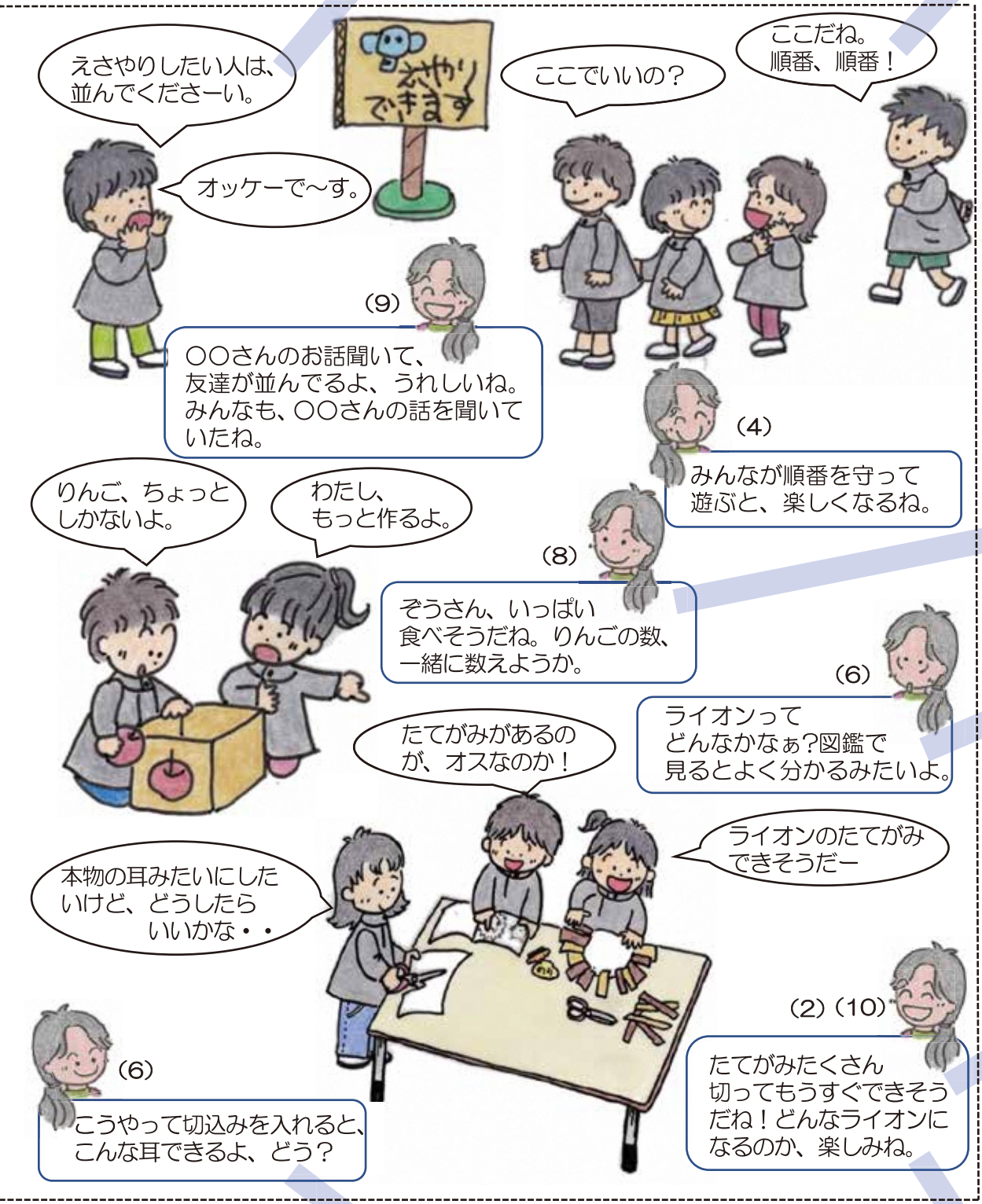
幼児教育にはね、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）があるんだよ。できなければいけないことではないんだ。先生たちが発達の方向として意識してくれているよ！



（3）協同性
（9）言葉による伝え合い
- 友達と一緒だからできる、楽しい、ということを感じられるように伝えている。
- ライオンゾーンを作る目的をもち、自分たちで考え、友達と話しながら、遊びを進めたいと思えるように伝えている。

（9）言葉による伝え合い
- 自分の思いや考えが、相手に伝わったうれしさに共感している。
- 友達の話を聞いていた周囲の友達を認めている。

（4）道徳性・規範意識の芽生え
- 自分から守ろうとしている姿を認めている。
- 友達と一緒に楽しく過ごすためのルールや約束があることや守る大切さを伝えている。



（8）数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 一緒に考えたり、比べたりし、数量への関心がもてるようにしている。

（6）思考力の芽生え
- ライオンの生態について興味がもてるよう、図鑑等を提示している。

（2）自立心
- じっくり最後まで取り組もうとする姿を認めるとともに、目的を実現した喜びに共感することで、幼児の自信をもった次の行動する姿につなげている。

（6）思考力の芽生え
- 本物のぞうの耳のように作りたいというイメージをくみ取り、紙に切込みを入れる方法を具体的に伝えている。

（10）豊かな感性と表現
- イメージしたライオンのお面を作るという目的に向かって、考え工夫し、最後まで取り組もうとする姿を認める。

◆「“6 月のある日の動物園ごっこ”の始まりは、何だったの？」

この事例は、保育者が、子どもの言葉やつぶやきをキャッチしたことが、きっかけでした。

【事例】次は動物園ごっこしよう！

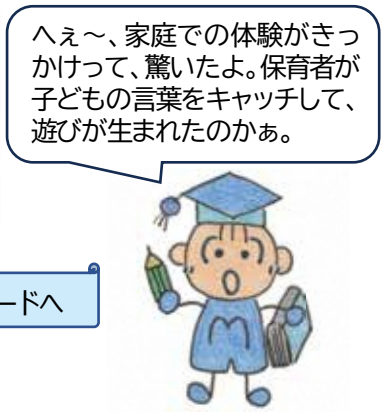
家族で水族館に行った幼児がぴょんぴょん跳んでいたので、保育者が「何になったのかな？」と話しかけると「わたしイルカになったの！」「上手に変身しているね～、水族館で見たことあるの？」「うん、イルカショー見たよ！」と会話をしたことがきっかけで、イルカショーごっこが始まりました。段ボールの仕切りの中に、水に見立てた青いポンポンを散りばめ、プールの完成です！イルカ役の子が泳いだり、フープめがけて飛び込むまねをしたりしながら遊びを楽しんでいました。その姿を見て「やりたーい！」と興味をもった７名が、イルカになる、えさの魚を作る、イルカのアシスタント役をする等、１週間近く遊びは続きました。

遊びが終わりに向かい始めた頃、A児が「今度は動物園ごっこ、やりたいよ。」「私ライオンになる。ガオーッ！って驚かせるの。」「お肉食べたりしたーい。」と周りの友達に話すと、「ぼく、動物園でライオンバスに乗ったことあるよ、キングブロックでバス作ったら面白いんじゃない？」と、遊びのイメージを保育者に伝えにきました。イルカショーごっこが終わると「よし、やろう！」と新しい遊びが動き出したのです。

遊びの始まりは　イルカショー

えさをもらっている　ぞう

ライオンも　のっそのそ！



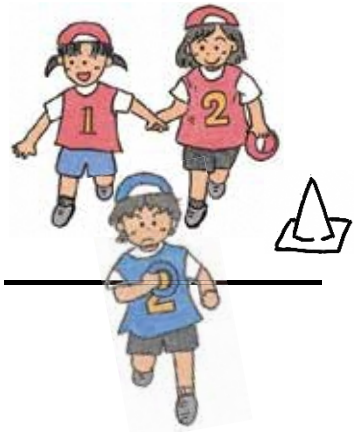
この動物園ごっこは、どのように遊びが展開されていったのでしょうか　続きは二次元コードへ

◆「多様性を受け止め合いながら、育ち合います」

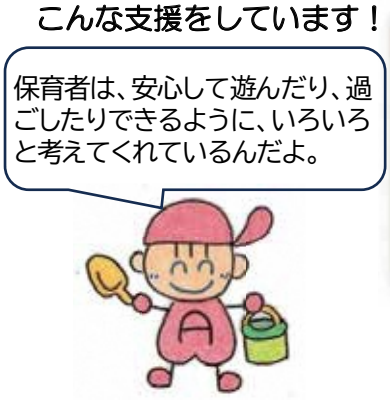
子どもたちは、みんな一人一人のよさがあり、その子なりの特性があります。例えば「音に敏感」「ルーティーンが崩されるのは苦手」等が見られるときもあります。保育者は、その子のありのままを受け止め、必要な支援を考えながら向き合っています。子どもたちが、安心して周りに関わりながら、園生活を楽しむことを大切にしています。

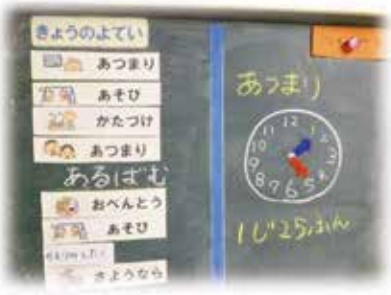
【事例】一緒に走る！（リレーの場面）

「リレーはやらない、走らない！」とA児。保育者は、どうしたら走ってくれるんだろう。」と考え続けました。「先生と一緒に走ろうか！」と話すと、首を横に振りました。その時に「B児と一緒がいい・・・」と話してくれたのです。B児にその話をすると「いいよ、２ 回走るから！」「一緒に手つないで走ろう。」とA児に伝えると、A児はとてもうれしそうな表情でした。今日は走りたくないなという日もありましたが、運動会の日は、B児と一緒に笑顔で走っていました。



こんな支援をしています！





見通しがもてるように

園で過ごす時間に、今は何ができるのか、次は何があるのかが分かっていた方が、安心して過ごせる子どももいます。「きょうのよてい」や「あつまりのじかん」等を、絵で表示したり、個別に絵カードを見せたりすることもしています。

急な変更が苦手な子どもには、事前にその変更内容や理由を伝えています。

ゼロからのスタートではない

子どもは幼児期にたっぷりと学んできています

各小学校においては、入学した児童が、幼児期の教育における遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能になるようにするための「スタートカリキュラム」の充実が求められています。

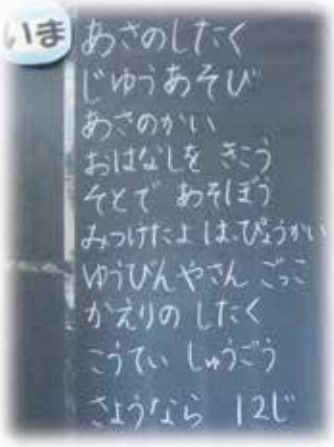
実践を重ねることで、入学当初の指導方法が変わり、子どもの主体的な姿がより見られるようになってきているなどの成果が見られます。

「スタートカリキュラム」に幼児教育の考え方を取り入れることで

子どもに安心感が生まれます！

安心

文字の読み書きは入学してから学びます。幼児教育施設と同じように氏名と目印になるイラストシールで場所を示すことで、どの子にも安心感が生まれます。



床に座るなどして、先生や友達との距離が近くなると、安心して話したり聞いたりする姿が見られるよ。

この時期の学びの特徴を踏まえて、１０分から１５分程度の短い時間で時間割をつくっているよ。
チャイムは気にしなくても大丈夫！

小学校以降で進められている教育の方向性は、子どもそれぞれの興味・関心や一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出す観点から、幼児教育の「環境を通して行う教育」の考え方とつながっていると言われています。（引用※1）　　各小学校の実践です。

コーナーではブロック等で遊べます。登校したら自由に遊んで友達を増やしています。

教室に「ミニ図書館」です。朝の会・帰りの会では読み聞かせもしています。

いろいろなぬり絵を用意しています。さらに、折り紙や工作などの材料も準備すると多様な活動がどんどん広がります。

教室は、机に向かっての学びだけではありません。ゲームをしながらルールを決めています。

リラックスした姿勢で、本を読んだり、内容について情報交換したりしています。気になる隣のグループに移動してもOKです。楽しく絵本の紹介をしています。

生活科の「がっこうだいすき」の活動です。行きたいところを決めて、学校探検。発表方法も考えます。ワクワクドキドキの積み重ねが自信につながります。

スタートカリキュラムで幼児期の経験を小学校の学習につなぐと

子どもが自信をもち、成長していきます！

自信

幼児教育施設での経験を踏まえて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、学習の場面で、どのような姿として見られるのか？を考え計画を立てることが大切です。

（資料⇒子どもの発達や学びの経験を意識した生活科「がっこうだいすき」の指導案をご覧ください。）

接続期や就学期には、小学校と幼児教育施設と保護者が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で子どもを語ることが、さらなる理解や連携推進につながります。

キュウリ等の栽培経験やトウモロコシの皮むきは、自然について関心をもち、理解することの基になる。さらに、枯れたり虫に食われたりと、実感を伴って命の大切さを知ることで、アサガオを大切にし、生きることのすばらしさについて考えを深めることにつながる。

運動会や夏祭りのお店屋さんごっこ等では、共通の目的に向けて、たくさんの工夫や表現を楽しみ、新たな考えや多様な素材に触れる経験をする。多くの表現の基礎となるだけでなく学習全般の素地になる。さらに、臆することなく自信をもって表現することは、教科等の学習だけでなく、学校生活を意欲的に進める基盤ともなる。

布団敷や生き物の世話などの当番の日は、しなければならないことを自覚して行動するようになる。このような経験は、積極的に粘り強く取り組む姿など、日々の生活が楽しく充実することにつながっていく。

どんな経験をしてきたか、わからなかったら、子どもに聞いてみよう。

「幼稚園や保育園やこども園ではどうしていたの？」

日野市の保育施設・小学校　共に学んでいます

日野市では、令和５年度に「幼児教育・保育連携推進プロジェクトチーム」を立ち上げました。これまで全国に先駆けて実施してきた、市内の幼保小連携の更なる推進と多様性に応じた学びの充実を図ることを目的としています。

子どもたちが幼児期に遊びや生活の中で育まれた資質や能力は、１年生になっても途切れるのではなく、連続していきます。そのこと踏まえ、民間・公立全ての保育園・幼稚園・小学校がそれぞれの立場を越え、『自分ごと』として子どもたちのことを考えていくことが求められています。

先生たちの合同研修も実施しています。全ての子どもたちにとって、園や小学校が「楽しい！」と感じ、真綿に包まれたような自分の大好きな居場所！になってほしいです。そのためには、先生たちの幼児・児童理解や、より望ましい保育・授業を進めるうえでの資質向上やスキルアップが必要です。

夏の幼児教育研修会
「脳の発達から見る子ども理解と
伸ばすコミュニケーション」

幼保小連携教育推進委員会
公立幼稚園の保育参観の後、協議会ではグループでの話し合いを行い、講師からの助言を受けています。

講師
玉川大学　教授
大豆生田（おおまめうだ）　啓友（ひろとも）先生

公民幼保合同研修会
テーマ「子ども・保育者・保護者がわくわくする保育へ」

パンフレットでは伝えきれなかったことや資料は、下の二次元コード内に載せてあります。ぜひ見てください。

〇パンフレット補助資料
- ❋関係法令
- ❋実践事例　〇「動物園ごっこ」の続き　〇「ある日のドッジボール」
- ❋幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）の事例

（１）健康な心と体（２）自立性（３）協同性（４）道徳性・規範意識の芽生え（５）社会生活との関わり（６）思考力の芽生え（７）自然との関わり・生命尊重（８）数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚（９）言葉による伝え合い（10）豊かな感性と表現

二次元コードもみてね！

このパンフレットでは
3歳児以上の幼児期の施設での教育を「幼児教育」、幼稚園・保育所・認定こども園を「幼児教育施設」と、表記しました。
（文部科学省・国立教育政策研究所資料参考）

https://www.city.hino.lg.jp/kosodate/hoikuen/1028250/1028255.html

発行　日野市　幼児教育・保育連携推進プロジェクトチーム
〒191-8686　東京都日野市神明 1-12- 1
電　話　042-514-8719
発行年月　令和７年３月